

## 令和元年度下半期 地域ケアセンター会議 実施状況一覧(光が丘圏域)

地域包括支援センター名称	実施日	参加者(関係機関等)	参加者数	テーマ/目的	検討結果
北町	令和元年7月20日	民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、社会福祉協議会等	21人	【テーマ】 生活支援コーディネーターとともに地域の力を活かしませんか 【目的】 地域連携としてのグリーンリボンネットワークの紹介を通じて、地域で活躍されている方々がつながり、誰もが安心して生活できるよう、困りごとの話し合いやそれぞれの立場で解決方法を検討・共有する。	・生活支援コーディネーターの役割やグリーンリボンネットワークの活動内容について参加者へ周知した。 ・グループワークで「地域で生活する高齢者の困りごと」の共有と「それぞれの役割を通じて解決方法」を探る話し合いを行った。 ・「地域住民や事業所などと協力して、よりよい住みやすい地域づくりをしていきたい」等の意見があった。
練馬キングス・ガーデン	令和元年10月29日	民生児童委員、町会・自治会、警察署、消防署、介護サービス事業所等	38人	【テーマ】 地域づくりの中で、自分がどのような役割をしているか 【目的】 地域で「暮らす」「働く」「活動する」という視点から、町会、自治会、民生委員、見守りネットワーク協定団体(コンビニ、信用金庫等)、介護事業者との間で広く地域課題を共有し、地域課題の解決に向けた検討を行う。	・グループワークを行い、「地域づくりの中で、自分がどのような役割をしているか」、「その上でこれから関わりたい社会資源とどのように繋がっていきけるのか」について検討した。 ・「地域でどのようなグループがあるのかまだよく分からないため、もっと話を聞きたかった。」「会議に参加をすることで顔の見える関係になり、繋がることができた。」等の意見があった。
田柄	令和2年2月21日	民生児童委員、町会・自治会、訪問支援協力員、配食サービス事業所、介護サービス事業所等	29人	【テーマ】 田柄・北町地域での高齢者が気楽に集まることのできる居場所について 【目的】 2025年問題に向けて田柄地域の課題である高齢者の居場所の情報の共有と今後必要な取り組みについて検討をする。	・高齢者が気軽に集える地域の居場所について検討を行った。 ・「子どもと高齢者が一緒に考える世代間交流が必要。」「元気な高齢者が介護に回れる介護教室があるとよい。」「農家の家や部屋、車庫などの活用。」など様々な意見があった。 ・参加者の間では地域の高齢者の居場所が少ないという課題が共有できた。
練馬高松園	令和元年10月31日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、薬局、医療機関、介護サービス事業所等	43人	【テーマ】 認知症について ~安心して暮らし続けるために、地域でできること~ 【目的】 個別の地域課題を集約した地域ケアセンター会議を開催し、地域課題の解決とともに、住み慣れた地域で安心して暮らせるような地域包括ケアシステムを構築する。	・認知症対応研修プログラム「N-impro(ニンプロ)」の体験を通じて認知症への理解を深めた。 ・「ゲーム形式のニンプロが面白かった。」「一人ではなく相談できるんだと背中を改めて押し上げていただいた。」「町の高齢者にまず関心を持つことが大切である。」等の意見があった。 ・地域でのゆるやかな見守りや、顔の見える関係づくりのさらなる重要性が再認識できた。
光が丘	令和2年2月6日	民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、ボランティア団体、消防署、住宅供給公社等	71人	【テーマ】 「地域の課題を地域で解決していくために」 ~人と人、地域がつながるために私たちにできること~ 【目的】 「地域の課題を地域で解決していくために」人と人、地域がつながるために私たちに何が出来るかを検討する。	・前回からの継続で「人と人、地域がつながるために私たちができること」をテーマにグループワークを行った。 ・「地域でのつながりが昔より弱くなっている。」「継続してテーマを追った会議は意義がある。」等の意見があった。 ・グループワークの中では、顔の見える関係が築けるようになったなど前向きな意見から、個人情報の壁や孤立した人に対してアプローチが難しいなど、成果や課題を共有することが出来た。
第3育秀苑	令和2年1月13日	民生児童委員、町会・自治会、地域サロン団体、医師、介護サービス事業所、社会福祉協議会等	18人	【テーマ】 認知症の方の居場所づくりについて考える 【目的】 認知症の方にとっての居場所、人との交流の意味を理解する。地域の社会資源を可視化し、地域に新たな資源を作る意識作り、きっかけとなるよう働きかける。	・「認知症の方にとって外出・人との交流の意味とは?」というテーマで認知症サポート医からお話をいただいた。 ・認知症の方にとって居場所があることの意味を医師から説明していただき理解することができた。また社会資源のマップ作りを通して、資源が少ない地域が可視化された。「空き家などを活用して何かしたい。」というご意見もあった。

高松地域包括支援センターの地域ケアセンター会議は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

## 令和2年度上半期 地域ケアセンター会議 実施状況一覧(光が丘圏域)

地域包括支援センター名称	実施日	参加者(関係機関等)	参加者数	テーマ/目的	検討結果
北町	令和2年7月20日	練馬光が丘病院、訪問看護事業所、訪問介護事業所、総合福祉事務所等	11人	【テーマ】 地域における新型コロナウイルス感染症への対応力強化 【目的】 地域で新型コロナウイルス感染症の罹患患者の発生に伴い、各事業の抱える課題や対応策などを共有することで、地域における新型コロナウイルス感染症への対応力の強化を行う。	・訪問介護事業所では、発熱者や感染症疑いの方が発生した際に、どのように対応すべきか迷ったなどの状況があった。 ・「地域で感染症の対応を行う場合は、費用などの負担を一つの事業所単体で担っていくことが難しい。」等の意見があった。 ・地域全体で必要な介護サービス量を確保するためには、それぞれの事業所の対応だけでなく、地域の事業所が協力できる体制の構築が必要である。
練馬キングス・ガーデン	令和2年8月27日	東京大学、警察署、消防署、介護サービス事業所、総合福祉事務所等	19人	【テーマ】 コロナ禍に生きる 【目的】 地域で「暮らす」「働く」「活動する」という視点から、関係者間で広く地域課題を共有し、課題解決に向けた検討を行う。	・各公共機関等からコロナ禍における公共的な働きとして情報提供をいただき共有した。 ・施設、通所サービス事業所の感染症対策等について情報共有した。 ・「現場におけるコロナへの対応について、事例を多く聞いて参考にあった。各事業所での取り組みに限界がある点については、地域での協力も大切になってくると思う。」等の意見があった。
田柄	令和2年8月25日 令和2年8月27日	民児童生委員、町会・自治会、薬局、介護サービス事業所等	38人	【テーマ】 「防災」と「居場所づくり」 【目的】 地域課題である水害を含め「防災」について防災学習センターの講話や参観者の取組を参考にして、各拠点での防災への取り組みへのきっかけとしてもらう。	・水害について田柄、北町地域の現状の課題が共有できた。 ・「地震と水害では避難の考え方や避難場所が違うことが分かり課題であることが分かった。事業所に戻り伝達したい。」等の意見があった。 ・会議開催にあたり感染症予防として事業所等代表参加で2日間に渡り開催。体温測定、アルコール消毒など感染予防に配慮し参加者に協力いただき開催できた。
練馬高松園	令和2年9月17日	民生児童委員、町会・自治会、老人クラブ、薬局、医療機関、介護サービス事業所等	13人	【テーマ】 避難することになったら 【目的】 「避難することになったら」をテーマに、避難拠点での取り組みと安否確認方法について情報共有し、日頃の支援に活用していただく。	・「家族が不在の時に一人でいられない方をどうしたら良いか、考えておく必要がある。」「地域レベルの防災の他に個人レベルの防災があると思う。お薬手帳の内容更新や予備の薬を持っておくことも必要である。」等の意見があった。 ・日頃の取り組みを通して、感染症に対応した避難拠点の運営を知っていただくことができた。
光が丘	令和2年8月21日	民生児童委員、町会・自治会、介護サービス事業所、住宅供給公社等	43人	【テーマ】 「ひきこもり」について 【目的】 「ひきこもり」の定義を確認し、「ひきこもり」の人の支援について考え、誰もが安心して生活できる地域になることを検討する。	・「ひきこもり」についてビデオを視聴し、見守ることの大切さや引きこもりといわれている方々の思いを聞き、共有できたことで視野が広がった。 ・「ひきこもり防止は、家族とその周りからのコミュニケーションが一番大事だと思った。」「困っている人を助けるのではなく、助ける人をたくさん作る仕組みづくりが大切」等の意見があった。
高松	令和2年7月28日	民生児童委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所等	25人	【テーマ】 新型コロナウイルス感染拡大に伴う地域高齢者への影響とその対策について 【目的】 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、感染予防と社会経済活動の両立について、地域の高齢者支援に携わる関係者にて、振り返りと今後の工夫などを共有する。	・午前中は民生委員、町会・自治会等を対象に、午後は介護サービス事業所を対象に、活動の工夫や包括・行政への要望等について共有した。 ・区への提案として「テレビ電話の活用促進や少人数のウォーキング活動等の推奨、見守りは継続するなど柔軟な対応をしてほしい」等の意見があった。また、日常的に高齢者への備蓄を促すなど、自助への働きかけが必要との意見もあった。
第3育秀苑	令和2年9月14日	介護支援専門員、社会福祉協議会等	14人	【テーマ】 もっと知ろう！ほっとサポートねりま 【目的】 金銭管理が必要な利用者がコロナ禍により増加しているため、成年後見制度利用前に利用可能な社会福祉協議会の制度を学び直し、利用者が住み慣れた地域で安全に生活できるよう情報共有を行う。	・「近くて遠い制度であったので、利用までのプロセスや制度の趣旨などが理解できた。」「事業所から1名の参加であったので、他の職員にも参加してもらいたい内容であった。」等の意見があった。 ・コロナ禍での会議開催であり人数を絞っての参加であったが、事前事後アンケートを実施し、そこから出た質問に対してのフィードバックを行うことで、制度理解を進めることができた。